

① 中止  
② 食った  
③ 大海

④ 活気  
⑤ 年頭

2  
1 A ウ  
B イ  
C ア  
2 ウ

3 好き  
4 アぜん  
イす  
き

(※4完答)

5 デザート

6 ア 2  
イ 2  
ウ 1

3  
1 よわ  
2 I ウ  
II ア

3 はるお  
4 エ

5 年が

6 ア 男ら  
イ ぜっ

配点

① 各2点×5=10点

②~③ 各5点×18=90点

<計>100点

① 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。①「中止」には「注視」という同音のことばもあるので、気をつけよう。②「食った」は実際に食べるだけでなく、この問題のように「人を食う」で「人を小馬鹿にしたような言動をとる」という意味もある。③「大海」は「大会」と書かないようにしよう。④「活気」も「各期」「画期」といった同音のことばときちんと区別して書こう。⑤「年頭」は年のはじめという意味である。

2

- 1 A (A)の前では「ない」、後では「ある」と書いてあることから逆接の「でも」がはいる。  
B (B)の前では、別腹と言って食べるのは人間だけで、野生動物に肥満はいないはずだと書いてあり、そこからみちびかれる内容が後に書かれていることから順接の「だから」がはいる。  
C (C)の前はライオンの話で、後はチンパンジーの話なので並列の「また」がはいる。
- 2 「別腹」とは「大人がよく言いわけとして使う言葉」であるとあった。食べないほうがいいのだが、ゆうわくに勝てないので食べてしまうばつの悪さをこまかそうとしているのである。
- 3 別腹と言って食べてしまうことの「言いわけ」である。どうして満腹なのに食べてしまうのかと考えて、答えとなる部分さがしてほしい。
- 4 次の段落に「このすきまが別腹とよばれる」とある。「このすきま」については同じ段落で説明されているので、あとは字数も手がかりに( )にはいることばをさがしていこう。
- 5 本文のはじめに「ケーキを見ると食べたくなり」と書いてあった。見たら食べたくなるものを指定された字数でさがそう。
- 6 ア 「別腹」は大人が言いわけとして使うとあったが、「大人だけ」のことは書いていなかった。  
イ レプチンが出るのは動物も人間も同じであった。  
ウ 本文後半で書かれていることである。

3

- 1 登場人物はつねに同じことばで表現されるとは限らない。読み進めながら登場人物を表すことばが出てきたら、だれのことをさしているのかおさえていこう。「はるお」の場合、いつもないばかりいるということもさがす手がかりになるだろう。
- 2 I 「はるお」がないてばかりいることにたいして「ぼく」はハラをたてていることから考える。  
II 直後に「きみがわるくなってきた」があるからといってエをえらんではいけない。「きみがわるくなってきた」のは二週間にしようも後のことである。ぼくがなくなるといったら、ほんとうになかなくなった「はるお」にたいする気持ちを答える。
- 3 前に「やっぱり」とあるので、「ぼく」が予想したことである。なき声を聞いて、その主が「はるお」だと思い、あたりを見まわしたら、ないていたのは「はるお」だったということである。
- 4 「ぼく」が「はるお」に「男らしく、ビシッとしろよ、ビシッと」といっている。こういうのを「はっぱ(発破)をかける」という。
- 5 「年がら年中」は「いつも。一年中」という意味のことばである。
- 6 ア 「それ」は大せいこうして「はるお」はなくなかった。「ぼく」のことばに「男だったらなくな」とあったので、「ぼく」は「はるお」をなかないように、つまり「男らしく」したかったのである。  
イ こちらの方は答えやすかっただろう。◎の文にある「ないたら( )」だと言ったと「ぼく」のことばを照らし合わせてみると「もし、またないたら、せつこうだぞ」があった。